

1. パブリックコメントの概要

- (1) 意見募集期間 令和7年9月1日（月曜日）～ 令和7年10月1日（水曜日）（必着）
(2) 意見提出者数 19人（うち個人：19人、法人その他の団体：0団体）
(3) 意見提出数（28） 持参（0）、郵送（0）、電子メール（1）、意見提出フォーム（27）

2. 意見の内容と市の考え方

寄せられた意見の内容及び意見に関する市の考え方は次のとおりです。

番号	意見内容	市の考え方
1	・例えばリクイグアナとかゴライアスガエル、チュウゴクオオサンショウウオ、ウシガエル、オオヒキガエルを初め、小動物各種（両生類・爬虫類を初め、魚類、昆虫類など）の生体を、豊橋総合動植物公園のマスコットのなアンバサダーとして、「動物大使」として多数展示しても良からうかと思う。 ・非常に珍しい希少動物とか絶滅動物各種の複製骨格標本（特に日本の動物園ではお目にかかれない種類）を、他に類を見ない程多数展示しても良いか。 https://boneclones.com/category/all-zoology-skeletons/zoology#view=grid&category=153&page=1&pageSize=30 https://boneclones.com/category/zoology-skulls/zoology https://boneclones.com/category/endangered-species/zoology https://www.cnn.co.jp/fringe/35237990.html https://x.com/iZoo_iZoo_/media https://x.com/_ryukon/status/1967873080765841896 https://x.com/iZoo_iZoo_/status/1971736593779380526 https://x.com/iZoo_iZoo_/status/1972440072520880305 https://x.com/iZoo_iZoo_/status/1972869133156155446 https://www.aquaworld-oarai.com/2025/09/11/invasive-species/	参考意見として受け止めさせていただきます。
2	計画（案）第3章 基本方針、1 整備の方向性、（5）コンセプト、「③豊橋のヒト・モノ・コトを活用した人材育成と社会課題に貢献する拠点づくり」の項の、「・豊橋において地元や最先端の自然科学とかかわることで、豊橋に愛着を持ち、豊橋の将来を考える人材を育てます」に関連し、豊橋市生まれの天文教育家、故・金子功氏が保有し、現在、国立天文台で保管されている天体望遠鏡群を展示することを提案します。 1918年豊橋市に生まれた金子功氏（2009年没）は、戦後、豊橋市向山東町に「豊橋向山天文台」を開設、その後、1972年に東栄町御園に移住、「御園高原自然学習村」等を運営し、奥三河地域で天文教育普及等に多大な貢献をされました。その御園高原自然学習村で天文アマチュアによる天体観測に実際に使用された天体望遠鏡群が、2014年に国立天文台（東京都三鷹市）に譲渡、保管されたものの、諸事情により国立天文台の倉庫に眠ったまま10年以上の月日がたち、今も活用のめどが立っていません。 （国立天文台アーカイブ新聞「第740号 金子天文台の機材を国立天文台に譲渡ーその1ー（2014年7月14日）」&lt;https://prc.nao.ac.jp/museum/arc_news/arc_news740.pdf&gt;） 金子功氏は、戦後日本の天文教育普及の黎明期、天文アマチュアによる天体観測や自作の金子式プラネタリウムによる青少年への天文教育普及に多大な貢献をした天文教育家として天文学界において著名な人物です。また、現・名古屋科学館が設立された1960年代に「愛知県博物館協会」の設立に奔走されたことが知られています。理事（副会長）を務められていました。 今回の新しい豊橋市科学教育教育の拠点施設の整備に際し、豊橋を故郷に持つ郷土の偉人、2002年にノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊氏とともに、豊橋、東三河地域で身近に感じる天文家・教育者の一人として、金子功氏の地道な功績をたたえ、天文、科学を志す青少年への刺激とすべく、金子功氏の業績とこれらの天体望遠鏡群を展示することを提案します。	参考意見として受け止めさせていただきます。
3	地下資源館も移設するという話だと思いますが、現在ある、地下に潜っていくような入り口を、ぜひ新たな地下資源館にも残してほしいです。	参考意見として受け止めさせていただきます。
4	豊橋市の科学教育施設をのんほいパーク内に建設する事に賛成します。 せっかくつくるのであれば、プラネタリウムを名古屋科学館のように最大限に使っていただきたい事。 また解剖や、実験体験等、考えている様子もお見受けしました。これについても賛成しますが、間口を広く取っていただきたいです。 子供、大人、高齢者でも共に楽しめる内容が望ましい。 特に解剖は、このあたりの地域でもあまり聞かない(私が知らないだけならすみません。)のでとても楽しみです。 現在の地下資源館の体験コーナーも大好きで、私の周りでは好評である為、この様なものも新しくして存続させて頂きたいです。 働き方も多様性の時代、土日祝だけでなく、平日も楽しめるイベントを行って頂ければ幸いです。 気軽に立ち寄れる、何度も行きたくなる施設になる事を祈ります。	計画を推進していく上で参考とさせていただきます。
5	視聴覚教育センターは20年ほど前、小中学校の社会科見学等で訪れたことがありますが、それ以来行っていません。 動植物公園内に移設されれば、自然史博物館とあわせて、子どもを連れていくのにちょうどいいと思います。 集約される際には、自然史博物館の機能との整理、公園内の他施設、憩いの広場のような屋外空間と合わせた、これまでにはできなかったような体験、ワークショップなど、ソフト事業の工夫に期待します。 教育機関、大学との連携について、より詳細な、実効性のある施策にで検討が深まっていくことを期待します。	計画を推進していく上で参考とさせていただきます。
6	計画地が「屋外コロシアム及びその周辺」とありますが屋外コロシアムは奥まった地にあり、メイン通路のカナール沿いの「憩いの広場」も含めた記載にしてください。 東門から中央門がメイン通路であり、カナールから建物が見えないと看板案内では関心のある人しか訪れません。子供の可能性を広げるため、基本計画では計画地を広くして、基本設計時に最適地の絞り込みをしてください。 自然史博物館では噴水からのアプローチが明確で両サイドにはV字形の動線がありますが、科学教育拠点施設ではメイン通路から奥っており、来館者の施設までの外部動線・アプローチが基本計画では不明ですので、アプローチ計画を記載してください。	参考意見として受け止めさせていただきます。

7	一番目 入館料金はなるべく低額でお願いします。低所得の家の子供でも気軽にに入れるよう願います。 二番目 プラネタリウムはできれば最新の投影機を置いていただければ嬉しいです。 三番目 学校では学べない様な内容を望みます。展示物を見てあっと驚くような、興味を湧き立てるような展示物を置いて頂けますか。のんほいパーク内の他の施設にはないもので空、海の乗り物など。例えば軽飛行機、グライダー、漁船、ヨット、深海探査艇・・・。岐阜県のカミオカンデの模型など。 四番目 一般からのPC以外に、最先端の研究、活動をされている人たちからのヒアリングは是非お願いしたいと思います。現在の庁舎で働かれているゼネラリストのお子さんや孫たちの将来を考えられて、思いっきり考えて頂けますか。明るい豊橋が見えてくること間違いありません。	参考意見として受け止めさせていただきます。
8	〃〃〃〃〃〃で、現在は〃〃〃〃〃〃である〃〃〃〃と申します。豊橋出身の偉大な天文家である金子功氏にかかわる展示をぜひお願いしたいと思います。私が天文学者を目指したきっかけの一つが、金子功氏が開設した愛知県北設楽郡東栄町の「御園天文科学センター」でした。豊橋から移られて、センター開所の１年後（私が高校１年の）１９７５年に初めて訪問し、以来数度利用させていただきました。よく覚えているのは、金子氏から聞いたセンター設立に対する思い入れや、困難を乗り越えていく姿勢でした。私を含め、中部地方を中心に、天文関係者・天文愛好者のすそ野を広げることに大変大きな貢献をされた方だと思っています。 これまでいくつかの公共天文台、公共博物館の盛衰を見てきた経験からひとこと言わせていただければ、「ハコもの」のみに依存している施設は長続きしないように見えます。ソフト面というか、結局は、本気で施設を活性化させようとする常勤のスタッフがしっかりいないと、うまくいかないと思っています。５．１の管理運営手法を読ませていただきますと、この点が若干弱く、長期的な展望が不安に感じられました。ボランティアなどに頼るばかりでなく、常勤の学芸員を数名、しっかりと雇用しなければ、活気のある施設にはできないのではと感じます。ご検討いただければ幸いです。	参考意見として受け止めさせていただきます。
9	ユニバーサルデザインについての意見です。私は湖西市民ですが、豊橋の視聴覚センターや地下資源館など、小学４年生の息子がいつも楽しく利用させていただいております。 息子は軽度ですが、刺激過敏などの特性があり、恐らくそういう人は、人口の何%かの割合で存在していると思います。ですので、息子のケースをご参考にしていただけると嬉しいです。 そんな息子は、音が反響するような場所や、白くて眩しいような場所が苦手です。眩しさについては、ショッピングモールなど明るくて光がたくさん反射していると、気分が悪くなるようです。音については、女性客の多い喫茶店のようなうるさい感じも、辛いようです。落ち着かないようで、家に帰って休みたいと言い出します。あと、あまり天井が高過ぎると、それも落ち着かないようです。 ですから、これまでの視聴覚センターや資源館の施設は、とても居心地が良いようでした。明るさも眩しい程ではなく、むやみにピカピカ光ってなくて、音もそんなに反響なくて、環境によるストレスを感じないようにでした。そんな訳で、新施設は楽しみ半分、不安半分です。知的好奇心だけを刺激してくれるような施設になることを願っています。	参考意見として受け止めさせていただきます。
10	豊橋総合動植物公園内に新たな科学拠点施設が計画されているとのことで大変うれしく思います。このたび意見提出の機会を知り、お願いしたこと４点を提案させていただきます。 １．「新施設の屋根へ太陽光発電設置」 豊橋総合動植物公園は、SDGs を強く提唱しており、環境問題に配慮した設備が望まれると思います。（「絶滅動物園」というかなり強い言葉を使って提唱しておられます。子供たちにここまで強烈な言葉を投げかけるのであれば、その言葉の裏には相当な普段の生活の自制や責任が伴うべきだと思います。「絶滅危惧種」などの一般的な言葉の使用や、「絶滅動物園」の写真集を園内で販売することは問題ないと思うのですが、「豊橋絶滅動物園プロジェクト」とまで銘打つべきなのかは一度考えていただきたいと思います、、子供たちに微妙な違和感を与えないよう、せめて「絶滅動物復活プロジェクト」など正しい日本語で子供たちにメッセージを伝えてほしいです。） ２．「簡易宿泊施設の併設」 豊橋総合動植物公園は関東・関西からも新幹線下車１駅でアクセスできる観光スポットですが、１日で回るのは時間が足りず、今後施設が拡充されればなおさら回り切れません。新施設に簡易的な宿泊施設(少年自然の家のようなもの)が小規模でもあれば、よりよい体験や思い出を味わっていただけるのではないかと思います。（二川駅～園周辺に民間宿泊施設が全くないので、そちらのほうで誘致できるのであればこの提案は必要ないかもしれません） ３．「実験ショーのスタッフを教員以外から採用」 現在、視聴覚教育センターでの実験ショーの実演は現任教員もやっておられますが、教員の負担軽減が進められている昨今、県内外の理系大学生や、理系シニアのメンバーを広く募ることで、よりよい形で充実させていただければと思います。 ４．「次世代系循環バスの二川駅～東門間運行」 新施設に直接の関連はない事なのですが、電気系や水素系、さらには試験的に太陽光パネル搭載や自動運転などの先進的な駅循環バスを、自動車メーカーなどに働きかけて、ごく短距離間の運行ができるようになれば、科学拠点施設としてのメッセージ発信になるかと思います。 現在、関東・関西など遠方からの来園者にとっては新幹線下車１駅と好アクセスなのですが、二川駅からの東門までのアクセスは徒歩しかなく、このアクセスが改善されればJR社などにもさらに広範囲にPRしていただけるようになり、園の発展につながるのではないかと思います。（新幹線ダイヤに合わせた少ない本数に絞った運行でもよいかと思います。） こちらの園は、園路に起伏が少なくベビーカーで気持ちよく散策でき、またサポート施設も点在しているので子育て世代にとって本当に気持ちよく過ごせる場所となっています。ぜひ遠方の方にもこの園の素晴らしさを知っていただきたいと思っております。	参考意見として受け止めさせていただきます。 なお、「実験ショーのスタッフを教員以外から採用」については、これらに携わる教員は業務としてではなくボランティアとして自らの意思で業務外の日に活動しています。また、地域に根ざす科学教育の場として、登録ボランティアを始め、高校や大学、企業などにも広く活用していただいております。今後も拡充していく考えです。
11	新しい科学館が出来ることについて心よりお喜び申し上げます。 豊橋と言えば世界的にも有名な金子氏が活動した場所ですので、ぜひ金子氏のさまざまな展示がなされることをぜひ望みます。 これを機に国際シンポジウムを開催して、内外の科学教育や天文学に携わるの方々をお呼びすると良いかもしれません。 〃〃〃〃〃〃として、お手伝いできることはぜひさせていただくと幸いです。	参考意見として受け止めさせていただきます。

12	・現状、自然史博物館が生物や地学の分野を含む生き物の進化に関する展示となっており、新設する施設でも生物や地学分野が手厚くなっており、自然科学の分野に偏りが生じている。計画で手薄となっている物理・化学分野の拡充やSTEAM教育を見据えて情報や数学などのエリアも設けてはよいのではないか。 ・豊橋にゆかりのある科学者（例えば小柴先生など）の業績や豊橋のものづくり（豊橋筆や民間企業とのタイアップなど）を紹介するような科学展示を設け、豊橋発の科学技術に関心を持てるようにしてほしい。 ・配置計画を見ると、科学体験、プラネタリウムや実験ショーを見ない人が体験できる場所は、ロビー及び科学体験展示だけとなっており、非常に狭いエリアとなっている。一般の見学者で実験ショーなどを見なくても常設展示だけで学習や体験ができるような工夫をしてほしい。 ・宇宙や星の観測を行うため、天文台の設置について構想があったが、案には盛り込まれているのか。	参考意見として受け止めさせていただきます。 なお、天文台の設置については、現在計画していません。
13	視聴覚教育センターは、F M的にも限界を迎えており、市民意見の多くにもあるように、自然史博物館との統合は妥当に思われます。 一方で集約にはメリットだけでなく、総合動植物園の入場料がかかってしまう懸念や、小さな施設には無かったデメリットも生じます。それらの回避策も丁寧に検討をお願いしたいと思います。 利用者視点からすれば、総合動植物公園がさらに大きくなるので、既にとても1日で見切れる筈もない施設がさらに大きくなります（万博状態になり、人混みを嫌う層にはさらに敬遠されます）。 また、現状でもプラネタリウムは雨の日には混雑するため（動物園からの避難民というイメージ）、さらに天気に左右されるキャパシティの調整が必要になると予想されます。少子化の流れですが、有名施設の規模感が必要です。 自然科学に親しむために、分野の境界を作らないという思想には素晴らしいものがありますが、動植物園・遊園地を目的とする場合と、じっくり星や化石・鉱石・技術を実感したい場合の間には大きなギャップがあります。 むしろ、敢えて軽く壁を作って利用者に寄り添いつつ、隣接分野にうまく誘導する工夫が望まれます。 自然史博物館に行きたいだけなのに、動植物園の入場料までかかるのは、足を遠ざけています（動植物園や遊園地とセットで600円はかなり安いが、自然史博物館にしか行かない場合には割高感がある。レジャー客が多いのは賑わいの点で好ましいとしても、落ち着かないので週末は行く気がしない。駐車場代や距離もあるので気楽に行くには負担が大きい。現状のアクセス性としては、平日午後の視聴覚教育センター・地下資源館がベスト）。 少なくとも、新施設専用の入り口はできないでしょうか？（ただし紳士協定で、あまり厳密な管理はしない。将来的に必要なになった際には、電子化により、柵を作ったり大掛かりなことをしないで対応する。） 入場料については、東三河在住の小中学生は「ほの国パスポート」があるので無料であり、既に素晴らしい行政サービスが存在しますが（お気軽過ぎて弊害もある）、最も専門性に目覚める高校生・大学生に対しては、大人料金がそのままかかってしまうため、一気に足が遠のいています（正に門前で尻込みされます。個性的なデートスポットや必要経費？と割り切れる覚悟の層に需要を絞り込んでいます）。 既存の期間限定学割は集客目的と多少のインセンティブは果たしているかもしれないとしても、本来の博物館としての機能に対しては、ほぼナンセンスです。 この機に、ぜひ学割を含めた利用者の負担を総合的に検討いただきたいです。 時代の流れと、受益者負担の考え方（職員では手に負えない人を寄せ付けない工夫）はある程度必要で、これまでの実績を有効に活かすためにも、闇雲に無料（博物館法の原則）化するのは現実的ではないとして、シンプルかつ効果的な入場料設定が望まれます。調停の手間は増えますが、もっと半免を活用すべきかと。 当日券案 ・動植物園・遊園地 400円 ・自然史+新施設 400円（プラネタリウムは別、遊具等と同様） ・フル 600円（差額を払えばいつでもバージョンアップが可能） 差額のみでバージョンアップができる仕様にする。動物園で遊んでいたら雨が降って来たので雨宿りすることにした、プラネタリウムを見た後で珍しい動物が公開されているというポスターを見たのでついでに行くことにした等々、気持ちよく世界を広げられる仕組みがあると良いと思います。 学割は、学生証（国際学生証も含む）や学術機関の職員証の提示で半額とする。200円なら行く気になる高校生大学生は多いと思われ、入場の際には学生証の提示を原則とすると明記しておく（実際には挙動で分かるので減多に確認しない、違法入場が増えてきたら時々検挙する）。 年間パスポート案 ・動植物園・遊園地 1500円 ・自然史+新施設 1500円 ・フル 2000円（差額を払えばいつでもバージョンアップ可能、ただし期限は元チケットに依る） もうほとんどお代はいただいているわけなので、敢えて厳密なチェックは不要。電車の改札よりも軽く、バレたらすぐに500円払っていただく。万一恥ずかしい思いをしなくても良いよう、最初からフルを買っていただけるように誘導する。 ほの国こどもパスポート並みに、市民のほぼ全員に買っていただけるような一種のステータスにすることを目指します。仮に1度も行けない年があっても、地元の施設・自然・科学を応援してますよ、という飲み会でも使えるネタになるよう、ネットやコンビニ販売を強化します。学割で半免。	参考意見として受け止めさせていただきます。
14	募集期間最終日に意見募集のことを知り十分検討できていませんが、動植物園内自然史博物館周辺に科学教育施設を集中する計画と理解して意見を投稿します。 有料の施設内に作ると今までの視聴覚教育センター・地下資源館のような使い方ができなくなります。これまでと同じ使い方ができるように、配慮ください。 豊橋市の小中高校生は無料で、その付き添いの大人も無料（または駐車場料金のみ）で使えるようにする。動植物園を無料にできない場合は、自然史博物館は幸い駐車場に隣接しているので、駐車場から直接入館できるようにする。新設する科学教育施設を自然史博物館から直接入館できるようにする。 動植物園の外から直接自然史博物館、新設科学教育施設に入館できるようになる場合は、二川駅からの徒歩の経路を用意する。動植物園外周に沿った樹木の中の遊歩道の整備が望ましい。 動植物園の入園料を払わなければ利用できないような施設にならないように配慮願う。	参考意見として受け止めさせていただきます。

15	豊橋市自然史博物館、視聴覚資料センター、地下資源館の再編となる今回の拠点施設の計画には概ね賛同するものですが、以下の点について意見申し上げます。 ・自然科学を伝える施設であるのと同時に、豊橋では他地域に比べて生物多様性を重視する取り組みが今ひとつ一般市民には伝わっていないことを実感しています。科学拠点施設の整備には科学知識に基づいた、生態系や生物多様性、環境についての学習をより推し進めて頂く施設になって欲しいと望んでいます。 ・周辺の動物園や植物園と連携した学習の創設、のんほいパークの環境と一体した学習なども行って頂ければと思います。 ・各施設の整備に関しては、そこで実際に運営に関わっている専門職員の方の意見も踏まえ、そして計画の都度市民の意見も取り入れて欲しいと思います。 ・PFI事業には民間企業の利益ありきの運営となって公益性が省みられない懸念もあります。その不安を払拭するためにも情報の公開と市民からの意見を取り入れて下さい。 ・自然史博物館の図書コーナーが手狭で利用しにくさを感じています。他市の同機関での図書を利用するスペースの広さや落ち着いて調べ学習をする環境を見るたび残念に思います。改善が出来ればお願いしたいです。 ・いまあるのんほいパークの樹木と共にある環境を大きく損ねない整備と運営をお願いします。 ・集客や営利至上ではない、質の高い自然科学教育が行われる施設であるための様々なプログラムの充実を期待したいです。 ・施設の整備として収蔵庫がどれくらいの見込みが必要なのかを各専門学芸員の方からのヒアリングを行って頂ければと思います。 ・質の高い自然科学教育には、人材の確保も大切です。学芸員の方々にとって自然科学教育の元となる研究が十二分に出来るような環境のためには、事務などの仕事をこなう人材も確保して頂けますようお願いします。 以上よろしく願いいたします。	参考意見として受け止めさせていただきます。 なお、PFI事業に関しては、基本整備計画（案）に記載のとおり、従来方式による整備とし、運営については直営を基本とする予定です。
16	現在の屋外コロシアムの位置に新施設を整備するようですが、子ども向けイベントの開催場所がどうなるのでしょうか。 この屋外コロシアムでは、子どもたちが楽しみにしているキャラクターショーなどの家族向けイベントが定期的に行われていたと記憶しております。 そのため、もしコロシアムを解体して別の建物を建設される場合でも、子ども向けのショーやイベントを安心して楽しめる「屋外ステージ」や「代替となる場所」も新たに整備していただきたいと考えています。 市民がこれまでのように家族で集い、子どもたちが笑顔になれる場が引き続き確保されることを強く希望いたします。	参考意見として受け止めさせていただきます。 なお、野外コロシアム機能は、代替となる場所を含め、今後検討していく予定です。
17	コンセプトは良いと思いました。 しかし、現在の視聴覚教育センターと地下資源館が合わせて5300㎡あるのに対し新施設は3000㎡で予定されているのはなぜでしょう？ 「未来の人と社会を創る 科学教育の拠点」を目指すのであれば、新しい教育施設は、縮小すべきでないと思います。 ワークショックなどは、自然史博物館でも開催可能ということだと思いますが、市外からの集客も視野に入れた「科学教育の拠点」にするためにも、内容の充実と5300㎡以上の施設が必要だと考えます。 豊橋市は、スポーツ施設にばかりお金をかけるのではなく、もっと教育に力を入れる方が良いと思います。	参考意見として受け止めさせていただきます。 なお、施設規模については自然史博物館の改良保全と併せて、今の施設機能を新施設と自然史博物館に集約化し、両施設で事業を展開していく中で設定しています。
18	幼い頃から同じ場所にあったらいいなと思ってきました。2つの施設をのんほいパークと融合させたら利用しやすくして合理的だと思います 人は大人になると懐かしさを求めてゆかりの物を求めたり場所を再訪します 親世代が子どもを連れて行く気になるよう、地下資源館と視聴覚センターにあった物だとわかるような懐かしめることがあるといいです それは展示物でなくても、看板、音、体験、催しなどでもいいと思います 設計の資料を見ると、面積が小さいように思えます。維持管理のしやすさでしょうか？しかしあまりに小さいとみずばらしくなると思います。もう少し大きくして、幼い子や赤ちゃんがゆったりと涼しく過ごせる、なんなら昼寝できる部屋や木陰の休憩施設を作ってください。ポール遊びができる場所をお願いします。 敷地内または隣接の地に宿泊できる施設か、キャンプ場所があると、遠方から研修に来る人や、熱心に学ぶお子さんが時間におわれずゆったりと楽しめると思います 本陣、駒屋、二川駅、のんほい東と西の入場口を回るバスの運行をぜひ！	参考意見として受け止めさせていただきます。
19	意見内容 私は乳幼児から学齢期の子どもと関わる教育・保育の現場に携わっています。その立場から、科学教育拠点施設の整備計画に大きな期待を寄せています。 子どもは日常の「なぜ？」「どうして？」という問いから科学的な探究を始めます。遊びから学びにつながる幼少期からその芽を育てる環境と、多様な年齢・機関・専門職が連携して支える仕組みがあることで、子ども一人ひとりの縦の成長が支えられます。 また、家庭は日常生活の中にあって探究心が最初に芽生える場所です。保護者が子どもの発見や不思議に共感し、共に楽しむことが科学的思考を育てます。拠点施設が親子で楽しめる科学体験や家庭教育支援にも力を注ぐことで、子ども・家庭・地域がつながる学びの循環が生まれることを願います。	計画を推進していく上で参考とさせていただきます。